

令和 6（2024）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

**メリー★ポピンズ 赤羽ルーム**

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し“自分で考え、行動する思考”を育みます。</li> <li>・10よりも100の経験を与え、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。</li> <li>・“感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。</li> <li>・「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</li> </ul>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せてあげて背中であげてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人</li> <li>・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中的言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。</li> </ul>

## 調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯15(在籍児童数18)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

## 調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。  
結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数  
利用者家族総数(世帯)  
共通評価項目による調査対象者数  
共通評価項目による調査の有効回答者数  
利用者家族総数に対する回答者割合(%)

18
15
15
12
80.0

## 利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」50.0%・「満足」41.7%の計91.7%と高い値を得ている。設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「保護者に配慮した行事日程」「子どもの気持ちの尊重」など、全17問中13問で80%台～100%の高い支持を得ており、「外部相談窓口の周知」のみ50%を下回っている。  
自由意見では「屋外での活動が多いこと、離乳食を相談しながら進められ、安心して進められること、先生方が皆さん話しやすい信頼できること、異年齢の子どもと常にふれ合うことで人間関係を学べることなど、とても気に入っている」「迎え時の会話、連絡帳、アプリを通じて子どもの様子を毎日知ることができて安心し、働いている保護者への配慮もあり、感謝している」「施設が大きいこともあり、子どもの受け渡しを玄関先でできるのはありがたく、バスで提携の園へ課外活動をしに行ったり、毎月イベントを考えてくれている」「先生方が温かく、信頼でき、さまざまな体験をさせてくれる」などの声が寄せられている。  
要望などとしては、「子どもの成長や発達に関して不安があった時に、気軽に相談できる機会があるとうれしい」との声があった。

## 利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	12	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者12人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「他の子どもたちとの接点も近く、毎日屋外活動もしていて、いい刺激になっていると思う」「屋外での活動が多いため自然とふれ合うことができ、心身の発達につながっていると思う」「親以外の大人や年上のお子さんたちへの基本的な信頼が醸成されていると感じる」の3件があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	12	0	0	0
有効回答者12人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「まだ8か月だが、友達に積極的に関わっていく姿もあるようだ」「いつも楽しそうな様子が窺えてうれしい」の2件が寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	11	1	0	0
「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%となっている。 自由意見には「離乳食の硬さや大きさ、量など、先生と相談することができ、親としてはとても安心して進めることができています」「子どもの食の成長ペースに合わせて配慮してくれて感謝している」の2件があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	10	2	0	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は2件で、「雨が降っていない限り外で過ごし、公園や商店街などに行き、自然や地域のお店などとふれ合っていて、親にはできない経験もたくさんしているので、とてもありがたい」のほか、低年齢児の畑等の戸外での活動のさらなる充実を望む声が見られる。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	9	1	0	2
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%となっている。 自由意見には「直前の変更や相談にも乗ってもらって感謝している」「いつも親切な対応をしてくれる」の2件が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	6	6	0	0
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が50.0%となっている。 自由意見は2件で、「不安に感じたことはなく、入口ドアに関しては、必ず施錠されていることを毎回確認するようにしている」のほか、保育中の安全管理等について、気になる点や要望が挙げる声が見られた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	12	0	0	0
有効回答者12人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には「共働きだが、ほぼすべての行事に参加できている」の1件があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	10	2	0	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は2件で、「登園時も降園時も先生方と話しており、話していると他の先生が話しに来てくれることもあり、とても話しやすい環境でありたい」のほか、日常の様子や言動について話したり相談するのはしやすいが、相談の機会がよりあるとよいとの声があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	9	2	0	1
「はい」が81.8%、「どちらともいえない」が18.2%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	10	1	1	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が8.3%となっている。 自由意見は2件で、職員の保護者・子どもへの挨拶や接遇について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	10	2	0	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%となっている。 自由意見は2件で、ケガの把握・対応や保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声が寄せられている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	7	3	0	2
「はい」が70.0%、「どちらともいえない」が30.0%となっている。 自由意見は1件で、子ども同士のトラブル発生時の保護者への報告について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	12	0	0	0
有効回答者12人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	9	1	0	2
「はい」が90.0%、「どちらともいえない」が10.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	9	3	0	0
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が25.0%となっている。 自由意見は1件で、子どもの成長・発達や日頃の生活、保育内容等に関する保護者との共有について、さらなる配慮を望む声が見られる。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	8	1	0	3
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は「あまり不満はない」の1件であった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	2	5	1	4
「はい」が25.0%、「どちらともいえない」が62.5%、「いいえ」が12.5%となっている。 自由意見には記入がなかった。				

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	カテゴリ1の講評	
	園運営や保育における法人共通の理念・方針等の、保護者との共有に取り組んでいる すべての子どもたちに、人に頼り、尋ね、自分で考え行動する力を、多様な生活体験の積み重ねの中で培ってゆくことを、法人共通の保育と運営の根本的な方針としている。法人の理念「にんげん力。育てます。」や子育て目標「センス・オブ・ワンダー」「人対人コミュニケーション」、子どもを中心に保護者・職員・地域の協働を旨とする運営理念には、そうした法人の思いが込められている。保護者にはこれらを、見学・入園時の説明のほか、日々の発信・掲示物や保護者懇談会等での日々の保育や子どもたちの育ちの共有を通じ、共通理解の獲得に努めている。 法人の目指すものを職員間で共有し、それをもとに園の方向性や運営の方針を定めている 職員には入職時とその後の法人による各種研修を通じ、上記の法人の理念等の理解と実践が促されている。また園内の毎年度開始前の「年間計画の策定会議」「キックオフミーティング」では、法人が上記の理念等を踏まえて毎年度定める「運営本部ミッション」をもとに、組織と保育の現況に基づく次年度の「基本方針」と園目標、行事その他の年間の運営の全体像を、職員参画のもとで定めている。その後の園運営全般に関する方針・施策の検討・決定や、法人から随時発信される系列園共通の施策や課題等の周知は、毎月設ける「園会議」で主になされている。 意思決定と情報共有の仕組みを整え、現場の主体性の発揮を旨とした園運営に努めている 施設長が園の運営や保育の統括を担い、常勤者と出席可能な常勤者が集う上記の園会議で、園・法人の各種施策・方針を現場と共有している。また毎日設ける朝礼・昼礼でも、種々の情報共有のほか、緊急の案件に関する意思決定を行っている。現場との密な意思疎通に努め、トップダウンのみによらず、職員の自発性や創意工夫を尊重することや、系列園への視察見学などから、自園に還元可能な好事例・先進事例を積極的に吸収することを、園運営の基本方針としている。保護者への各種の重要事項の伝達は、主にアプリでの配信と既読確認によって行っている。	

2			カテゴリ2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行				
サブカテゴリ1(2-1)				
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している			評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している			○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している			○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している			○非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している <span style="float: right;">評点(〇〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
<b>評価項目2</b> 着実な計画の実行に取り組んでいる <span style="float: right;">評点(〇〇)</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリー2の講評</b> <b>園の運営・課題解決と現場の実務について、各期間の計画が作成・実行されている</b> 毎年度開始前の「年間計画の策定会議」で、上述の「運営本部ミッション」をもとに、年度の園の目標と、保育や保護者・地域支援、人材育成や省資源・環境保護の各分野で、年度の重点課題を定め、各種会議や保育その他業務全般に関する、年間の方針や取組内容を確認している。また同計画の末尾に、当年度から3か年の「目指す姿」「重点施策」と、前年度の振り返りを併記している。事業計画中の保育その他の各業務分野では、年間及び各期間の実務の計画を別途作成し、期間に応じた取組内容と目標・ねらい等を定め、必要な進捗管理のもとで実行している。 <b>保護者や職員の意向をさまざまな方法で把握し、園の運営と課題の抽出に活かしている</b> 保護者の意向を、送迎時の会話やアプリ連絡帳のやり取り、保護者懇談会と保護者代表を招いて行う運営委員会での傾聴などを通じて把握している。今年度の運営委員会で上げられた意見をもとに、玄関の飛び出し防止等の安全対策の強化を図るなど、意向を踏まえた改善にも取り組んでいる。また職員の意向は、前述の各会議のほか、園長との面談や日々の業務内外の会話から把握し、法人が組織の状況や労働環境などへの意向等を把握するアンケートも設けられている。これらを園の運営と課題の抽出に活かし、上記の各計画の立案においても適宜参考としている。 <b>事業環境の動向の把握や、園の経営状況の管理の仕組みが整えられている</b> 入園前見学や各種子育て支援イベントの来園者から、地域内の子育てや保育・教育等に関する状況・ニーズを把握するほか、区の認証園施設長会や交流のある区内の他園との情報交換も、それらの機会となっている。行政の各種政策・制度の動向や業界内の話題は、左記の施設長会や法人内の施設長会議・勉強会、自治体・法人の各種通達などから把握している。これらの事業環境に関する情報も、同様に運営や計画立案の参考とし、予算の作成・管理や定員充足の状況等の管理は、施設長と法人が随時状況を共有し、必要な稟議と決裁のもとでなされている。		



3			カテゴリー3	
経営における社会的責任				
サブカテゴリー1(3-1)				
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。			○非該当
サブカテゴリー2(3-2)				
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている			○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある			○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している			○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている			○非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>5/5</b>
<b>評価項目1</b> 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
<b>評価項目2</b> 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
<b>カテゴリー3の講評</b> 法人共通の職員の規範や、社会人・保育者としての基本心得に関する啓発がなされている 法人共通の職員の規範として、「プロになる」「保護者の立場に立つ」「ビジネスマナー」「危機管理」など7分野の「コンピテンシー」が定められている。各職員は毎月、これらをもとに自身の強み・課題などを省みて次月の目標を設定し、日々の判断・行動の指針としている。また毎月の園会議で、各人の目標等の集約をもとに、当月の組織としての行動目標を定め、次月の同会議で振り返る仕組みも設けられている。入職時にも各種マナー等の社会人としての基本心得や、人権擁護・虐待防止、守秘義務など、保育従事者としての規範・規律が啓発されている。 園・家庭での虐待等の防止や、保護者の個別の意向への最善の対応に取り組んでいる 年度開始時の「キックオフミーティング」で、園内・家庭双方での子どもへの虐待的行為の排除を確認するとともに、全職員が法人策定のチェックリストにより、子どもの人権・性差への配慮などについて、半期ごとに自己点検を行っている。家庭での虐待等が把握された際は、法人内で理事長を交え、対応や連携先機関等を検討する仕組みとなっており、園内には法人の「虐待対応マニュアル」を常備している。苦情を含む保護者の個別の意向は、日々の交流・面談や玄関の意見箱、苦情解決制度など、多様な方法で把握し、職員への周知と最善の対応を図っている。 地域への透明性確保や積極的な子育て支援に努め、認証園間の連携にも加わっている ホームページや北区の各種媒体、地域の児童館での情報発信・広報にも取り組むほか、実習生等の来園に備え、法人共通の「保育品質マニュアル」に受け入れの手順等を定めている。また園を地域に開放し、日頃の保育や食育を紹介する「どろんこまつり」のほか、離乳食講座や保育・調理体験、近隣の公園での「青空保育」など、園の専門性を還元する毎月の「ちきんえっぐ」を通じ、地域の子育て家庭を積極的に支援している。北区の認証園施設長会に参画し、情報交換や共通課題の検討に加わるほか、園庭の借用等を通じた区内の他園との交流も持たれている。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
災害・不審者や戸外での安全確保など、園の立地等も踏まえたリスク対策に努めている 毎月の防災訓練により、災害時の対応を確認しており、園が浸水想定区域に立地することから、水害時の避難場所への移動に関する訓練も行っている。不審者対策訓練も毎年度設け、施設長が原則毎回散歩に同行するなど、戸外での遭遇にも備えている。また自動車・自転車の往來の多い道路に面する立地を踏まえ、散歩時の各プロセスでの安全対策の徹底に努めている。園内設備・備品の状況や誤飲・誤嚥防止に関する、各種の点検表による定期的な安全点検や、大規模災害と感染症の発生を想定した、法人としてのBCP(業務継続計画)の整備もなされている。 安全の確保を徹底すべく、事例の共有・検証や定期的な点検、現場への啓発を行っている ケガ等の事故や各種のインシデント(ヒヤリハット)は、直後の昼礼や組織内チャットでの周知のほか、遅滞なく検証を行って原因や防止対策を明確にし、予防と再発防止に努めている。また毎月の「事故防止委員会」で、園内及び系列他園の当月の事例を対策と併せ共有するほか、園内・園外の各危険箇所マップに随時追記している。園内各所の設備等の状況や誤飲・誤嚥防止対策に関する、年4回の安全点検も行うほか、年度開始前の会議では、保育中に起こりうる安全・保健面全般及び個人情報関連の各種リスクについて、事故防止のための啓発がなされている。 各種情報の適切な利用・管理のため、関係者への啓発や環境の整備を行っている 法人共通の「保育品質マニュアル」に、各種媒体の管理と情報漏洩の防止に関する取り扱いルールを定め、入職時の研修・OJTと着任後年2回の「情報セキュリティチェック」により、全職員にこれらの徹底を促しており、実習生等には受け入れ時に守秘義務の厳守を求めることとなっている。また各種書類の機密性等に応じた施錠管理、端末・ソフトウェア類の各種セキュリティ設定と法人による端末類の使用状況等の管理など、環境面でも漏洩防止に配慮している。保護者には入園時に、個人情報の利用目的や開示等の請求への対応などを説明している。		

カテゴリ5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>3/3</b>
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ5の講評		
<p>法人が人材確保と異動・配置などの人事、労働環境管理に関する仕組みを整備している</p> <p>職員の募集・採用は、法人が公式採用サイトや各種養成機関・採用関連媒体での求人、在籍職員からの紹介など、多様な方法で行っている。配属・異動は法人が各施設の人材ニーズに応じて行い、園内では各人の経験や適性に応じて期待する役割や成長、チームとしての関係性・バランスを考慮してスタッフを配置している。異動・配置とそれらを含む各人のキャリア形成については、施設長及び法人が面談等で把握する各人の意向も参考とされ、職員の勤怠・残業や休暇消化等の管理、各種休暇・福利厚生など、法人共通の労働環境整備もなされている。</p> <p>法人共通の職員の職責・研鑽の指標と、各人の能力・意欲の向上の仕組みを整備している</p> <p>法人の給与規程に、初任者から経営幹部級までの各職責を資格等級表として示し、「保育品質マニュアル」中の「人材育成・研修計画」に、法人内の研修等の体系を記載している。常勤者には等級上の職責に応じ、年度の園の重点課題も踏まえた目標を設定し、半期ごとの達成評価を、上記の施設長との面談で共有し、評価を処遇にも関連づけ、意欲の促進にも活かしている。新年度前の「年間計画の策定会議」では、各職員が「子どもに必要なと思う体験」を提案し、それを年間の活動に採り入れることで、各人が「自分のやりたい保育」ができるよう配慮している。</p> <p>職員と組織の学びの促進や、それらを活かした保育の質と同僚性の向上が図られている</p> <p>法人内に、新人向けやリーダー養成、法人の「保育品質マニュアル」「コンピテンシー」、業務改善や人権・虐待など、多様な研修が整備され、これらとも関連する各種Eラーニング課題も設けられている。また新人には基礎力育成のための「OJT研修」も設けられている。園内の各会議での諸課題の検討、園内研修での子どもの人権や保護者対応等に関する研鑽と、これらを通じた話し合いによる同僚性促進もなされている。法人の「子育ての質をあげる会議」に担当職員が参加し、学びを毎月の「園会議」等で共有し、保育の充実に活かす仕組みも持たれている。</p>		

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>昨年度の事業計画では、「保育内容の充実・質の向上」の分野の重点課題を、「日々の実践に手を抜かず、心身ともに充実した一日を過ごす」とした。</p> <p>認証園の特性でもあるが、子どもの入退園の流動性が認可園などと比較して大きく、園児の入れ替わりが随時生じている。その中でも安定的に法人の目指す保育を提供し、それぞれの子どもにとって最善の発達援助を行うために、まずは保育者の一人ひとりが毎日の日課の意味を理解し、子どもの成長に合わせた援助や活動の提供を行えるよう、体制の基盤づくりに取り組むこととした。</p> <p>具体的な取組として、年間を通じ、それぞれの保育者が日課を意識し、例えば散歩はなぜ9時に出発するのかなど、活動の目的や理由などへの共通理解を持てるよう、話し合いを重ねた。また子どもたちの成長・発達に応じて室内環境を見直したり、保育者の関わり方を検討するなど、細かな調整を随時行うよう努めたほか、それらを踏まえた指導計画の立案においても、毎月の計画は年間の目標を確認しながら立案し、それを週の計画に反映できるよう、各クラスで会議等での検討を行った。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評	
<p>年間を通じ、朝のリズム体操から座禅・雑巾がけ、<b>畑仕事</b>を行い、散歩の9時出発を毎日滞りなく実践できるよう、朝の時間帯の体制を整えるべく努めた。また保育者には9時の出発や午前・午後ともに戸外で目一杯遊ぶ理由を、施設長から伝えたり、考える機会を設けるなどした。</p> <p>日課の実践においては、日ごとの登園人数や、活動に参加する子どもたちの年齢構成などを考慮し、活動内容を柔軟に変更することで、子どもがより意欲的に、発達段階等に即して取り組めるよう、工夫に努めた。またリズム体操や座禅など、法人共通に設定する日課の活動を、朝の登園後や午後の室内活動など、全員が参加できる時間帯に設け、子どもたちが偏りなくそれらを体験できるよう配慮した。戸外活動では、保育者が子どもたちに屋外で過ごす楽しさを伝えるときに、一人ひとりの意欲やその日の心の状態に応じ、活動の選択もできるようにした。</p> <p>今年度はこれらの成果と振り返り、法人の「<b>運営本部ミッション</b>」などを踏まえ、事業計画の同分野では「生活力の体得」を重点課題として、見る・触れる・探索するなど、子どもが自ら周囲の人やものなどに関わろうとする力の育みなどを実践内容として、保育活動に反映させている。</p>	

## 評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

## 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度の事業計画の「保育所を利用する子どもの保護者への支援」の分野では、「信頼できる安心・安全な保育」「最高の接遇」などを重点課題に挙げ、取組を行った。毎日の園の保育や、その基盤にある法人の考え方、日々の子どもたちの姿を保護者により的確に伝えるとともに、朝夕の登降園時などの職員の接遇の最適化を図り、安心してわが子を預けられる、園への信頼感をより高めてもらうことを目指した。

保護者が日常の園との連絡・通信等に利用するアプリ内の「タイムライン」機能を活用し、毎日の活動を配信した。発信にあたっては、その日の主活動や子どもたちの楽しく過ごす様子だけでなく、休息の取り方やけんか等のトラブルの後の解決の仕方、泣いている友達への関わり方等、その子の成長が伝わる場面も意識的に選ぶようにした。また法人が職員に求める行動特性を言語化した「コンピテンシー」をもとに、保護者の心情に配慮した対応について話し合うなど、保護者に寄り添った接遇を職員一人ひとりが意識できるよう、啓発にも取り組んでいる。

## 目標の設定と取り組み

- ☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- ☐ 具体的な目標が設定されていなかった

## 取り組みの検証

- ☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 検証結果の反映

- ☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 評価項目2で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評

他法人で発生した誤飲事故が報道された翌日には、その日の登園児全員の食事の様子を、「ドキュメンテーション」として写真を用いて文書化し、お迎え時に保護者に見てもらっている。当該報道により、不安を感じながらわが子を預けた保護者も見られたことから、経営層は園の食事提供の状況や保育者の見守り方を伝えるよい機会となったと考えている。

またケガ等の事故やかみつき・けんかなどのトラブル等により、保護者への謝罪が必要となった際には、謝罪の仕方や言葉の使い方・言い回し等、配慮すべき事柄を施設長が担当に伝え、実際の場面でもそばで見守るなど、職員の支援を行いつつ接遇の質の向上を促した。タイムラインでの配信にあたっては、施設長がその日の全員の内容をできる限り確認し、必要に応じて指導や訂正を行うほか、接遇に関する園内研修も設けた。

今年度も同様の重点課題を設定し、タイムラインでの配信をはじめ、日々の保育の発信とその質の向上に取り組むとともに、保護者への接遇についても5月に園内研修を設け、お迎え時に急に保護者から相談を受けた場面を想定し、対応について検討するほか、7月の「どろんこまつり」の前にも接遇に関する園内研修を行っている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリ6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目												
	サブカテゴリ1												
1	<div>サービス情報の提供</div> <div>サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5</div> <div> <div>評価項目1</div> <div>利用希望者等に対してサービスの情報を提供している</div> <div>評点(〇〇〇〇〇)</div> </div> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている</td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している												
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている												
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している												
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している												
●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている												
	サブカテゴリ1の講評												
	<p>法人の目指す子育ての思いや具体的な保育の内容などが、ホームページで紹介されている</p> <p>法人のホームページには、系列園全体で行う「どろんこの子育て」に関する思いや具体的な内容などについて、象徴的な子どもたちの姿や関わりなどが伝わる写真を添え、わかりやすく発信している。また、当園のページでは、住所・連絡先・定員・アクセスマップなどの概要、提供するサービス内容と料金のほか、年間及び各月の行事予定、園・保健・食事・地域活動に関するお便りを公開している。園便りでは毎月の活動予定、歌やリズム運動の内容を知らせるとともに、前月の畑仕事や日課・園外活動などの様子を写真で発信している。</p> <p>行政との連携を図り、園に関連する情報を、さまざまな形で発信している</p> <p>行政との連携を図っており、園から区へ概要や基本的な情報を提供している。それが行政の各種資料やホームページなどに活用されており、所在地・電話番号と、園のサイトへのリンク設定のほか、年齢ごとの空き定員の最新情報が随時更新されることで、地域の方々への情報提供がなされている。また、東京都の認証保育所の制度及び園の紹介ページも設けられるほか、第三者評価の結果と園の情報が掲載される『とうきょう福祉ナビゲーション』など、公的なサイトで園の情報が取得可能となっている。</p> <p>入園に向けた見学と説明、入園が難しい場合の配慮も行っている</p> <p>見学の予約はホームページや電話での問い合わせから受け付けるほか、急な来園時には可能な対応と説明を行っている。園見学では園内の環境や雰囲気等を見て感じてもらうほか、「入園のしおり」を用いて法人の理念や子育ての目標を伝えたり、1日の流れや保護者との連携、持ち物などの詳細な説明を行っている。また地域向け活動「ちきんえっぐ」のお知らせや園のパンフレットなども配付している。入園が難しい場合は、近隣の系列園等を知らせるほか、当園を希望する方には、空きが生じた時のための待機登録も可能としている。</p>												



サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評			
<b>利用開始にあたっての保護者への説明と同意確認を行っている</b> 入園が決まった方には、重要事項の説明と同意確認、契約書の締結を行っている。法人の理念・方針や園の概要、開園日・時間や休園日、設備や職員体制、1日の保育の流れや食事の内容のほか、利用料金や支払い方法、園生活での準備物、保護者との連携や利用にあたっての留意事項、事故や災害時の対応、苦情解決の仕組みなどを説明している。また面談時に戸外遊び、裸足保育、毎日の日課などの保育方針の説明を行っている。これらの項目ごとに説明漏れがないか確認したうえで、保護者のチェックと同意のサインを得ている。			
<b>入園後の支援に必要となる、子どもと保護者の状況を把握している</b> 入園時に、保護者に2次元コードを渡しており、そこから児童の健康や育成歴、予防接種や食事などに関する内容をシステムに入力してもらうことで、一人ひとりの情報が把握できる仕組みとしている。また、入園前児童面談票をもとに、保育園の通園経験の有無、既往歴や発育、栄養面や食事の状況、身体的な成長や気になる事項などを聴き取るほか、登園予定日と「慣れ保育」、保護者の気になる事項などを話し合い、入園後の支援に必要な情報を把握している。これを担当及び職員間で共有し、一人ひとりの状況を踏まえた支援に努めている。			
<b>入園直後や利用終了後といった変化への対応と配慮に努めている</b> 入園直後はそれぞれの家庭や子どもの状況に応じて慣れ保育を行い、同じ保育者が子どもや保護者に対応するなどの配慮に努めている。また子どもの家庭での状況を把握し、その子に合わせた支援を行うとともに、園での子どもの様子を丁寧に伝達するよう配慮している。利用終了にあたり、保護者の不安等があればお迎え時や面談の際に相談対応などの支援を行うほか、退園後も保育が必要になった時に一時的な利用が可能となる「ビジター利用」について説明し、保護者の希望を確認したり、時に行事開催のお知らせをするなど、支援の継続に配慮している。			

		サブカテゴリー3	
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	13／13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を 個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当	

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			<b>評点(〇〇)</b>	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している			<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している				
<b>評点(〇〇〇)</b>				
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている			<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている			<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評				
<b>保育をするために必要となる情報を記録する仕組みを整えている</b> 子どもの成長・発達・健康の状況を定期的に確認して記録する仕組みを整えている。日々の健康状態は視診や保護者からの聴き取りで把握して、援助・支援につなげている。体格的な成長は毎月身体測定を実施してICTアプリ内に記録し、結果は保護者と共有している。健康診断を年2回実施し、予防接種の履歴については保護者から報告を受け、情報の更新を行っている。子どもの心身の発達状況は年齢に応じた頻度で、主な発達の現れに関するリストを用いて確認し、生活・活動・食事等の子どもの姿を記述形式で記録している。				
<b>事業計画・全体的な計画をもとに、諸計画を策定・実施し、振り返りを実施している</b> 園の事業計画・保育の全体的な計画をもとに、年齢別の年間を4期で構成する長期的な計画を策定し、月間・週間の短期的な計画に展開させている。そのほか農業・食育・保健の計画も策定し、実践に活用している。実践後には「省察(振り返り)」を実施して次の計画につなげている。月の計画は子どもの姿や異年齢保育、過程との連携に関する省察に加え、保育のための準備や保育目標の達成、適切な援助、成長・発達に応じた保育の4点について、実践の状況を、「できた・ややできた・あまりできなかった・できなかった」の4段階で評価している。				
<b>個人別の指導計画を策定し、保護者に保育の様子や目標を伝えている</b> <b>発達が著しい時期の2歳児まで</b> を預かる当園では、すべての子どもに対して個人別の保育計画を策定し、日々の姿も記録しており、個々の特性や性格、発達、興味に応じた保育提供や援助を行えるよう努めている。同じ空間内ですべての子どもが過ごす本園では、すべての子どもの様子をすべての職員が把握して援助することを大切に考えており、日々の対話や園会議を通じた情報共有に努めている。保育の目標や子どもの成長・発達の様子については、保護者懇談会で伝えるほか、日々の保育の様子は連絡帳や掲示物等で伝えている。				

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p><b>個人情報やプライバシーの保護に取り組んでいる</b></p> <p>入園時には個人情報の取り扱いについて、利用目的を明らかにしたうえで同意を得るほか、肖像の利用についてもその可否を確かめている。医療機関への受診など子どもの情報を外部に提供する際には、そのつど保護者の同意を得ることとしている。園では名札を着用することを基本とするともに、着用時に名前が見えるようにするか、見えないようにするかについても確認も行うなど、家庭のプライバシー観に即した配慮に努めている。また子どものプライバシーや人権への配慮として、排せつの援助は他から見えない場所で行うこととしている。</p> <p><b>日常の保育の中で、子どもが考えて行動する意思等を尊重することを大切にしている</b></p> <p>日常の保育の中では、子どもの意思で活動を選択し、自分で考えて行動できるよう導くことを大切にしている。また、名前を呼ぶ際には必ず敬称を付け、呼び捨てやあだ名で呼ばないことのほか、子どもが興味を示したことはできるだけ見守り、活動に取り組んでいる時は安全を確保しながら、必要最小限の補助を行うことを基本とし、これらをマニュアルに定め、その実践に努めている。また子どもと保護者の価値観や生活習慣などは、入園時及びその後の面談、各種の書類や会話等を通じて把握しており、園として可能な支援を心がけている。</p> <p><b>人権擁護や保護者の支援など、各職員が振り返り、意見交換を図る機会を設けている</b></p> <p>児童・保護者の人権に関するチェックリストをもとに、各自で振り返りを行っており、保育環境や保育内容、入園児童の保護者の育児支援の項目で、子どもへの言葉かけや接し方、援助の方法などを確認するとともに、要支援児への配慮や、保護者との連携、育児に関する共通理解を図る場の設定など、多様な内容で職員間の認識共有を図っている。また、法人の研修受講後、園内研修として、不適切保育や人権に関する内容を話し合っており、各自の人権チェックと不適切保育に関して意見交換を図り、より適切な保育実践と法人の思いの再確認を行っている。</p>			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
<b>評価項目1</b> 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
<b>評価項目2</b> サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
サブカテゴリー6の講評	
<b>法人共通のマニュアルを整え、各職員の活用促進と全体への周知をしている</b> 「保育品質マニュアル」には、理念・方針やミッション、統一ルール、保育の計画・記録・自己評価・業務改善のプロセス、保育場面ごとの手順や考え方のほか、事故・災害・感染症・個人情報保護などの対応、入園・退園の手続き、予算管理や稟議など、運営上で必要となる内容をまとめている。これを各職員に配付し、必要時の手引きとして活用するほか、法人共通の「保育運営マニュアル」を常備している。年度当初の「キックオフミーティング」では、特に重要となる内容をポイントを絞りながら、職員と確認し、欠席者には閲覧押印による共有を図っている。	
<b>定められた事項の徹底と、質や意識を高める取組に努めている</b> 園内には緊急対応や衛生管理などのマニュアルを掲示し、即時の対応に備えるほか、設備や事故防止、SIDSや園外保育人数確認など、チェック方式で実施の漏れがないような仕組みを整えている。法人で定めた「コンピテンシー」をもとに会議での振り返りや確認を行うほか、「子育ての質をあげる会議」では、自園における子育て支援や保育支援とはどのようなものか、道徳・規範意識とは何か、社会生活との関わり、非認知能力とは何かなど、テーマをもとに話をしている。その他、所定の項目に基づいた法人の内部監査が定期的に実施されている。	
<b>さまざまな視点から、運営や保育などを見直す仕組みが整えられている</b> 法人全体のマニュアルに関しては、所定の上程フローに合わせて意見具申が行われ、毎年、改定の必要性や内容を吟味したうえで、見直しを図っている。これを各園に展開するほか、随時の変更点は本部から各園に周知されている。また、毎年、の利用者アンケートを実施し、その結果を踏まえ、園内での話し合いや改善策の検討・実行などを行うほか、日常的な会話や運営委員会などでも受け付けている。職員の気づきや提案などは定例の会議で話し合ったり、毎年3月の <b>年間計画の策定会議</b> で自分たちの保育・運営の方向性を話し合い、決定する機会を設けている。	

## Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	
評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている
<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている
評価項目1の講評	
<p>子どもの状態を記録する仕組みを整え、発達に応じた環境や援助の工夫に努めている</p> <p>入園時には保育開始に必要となる、子どもの成長・発達の状況を「園児台帳」や面談による保護者からの聴き取りを通じて把握しており、その後も定期的・継続的に子どもの状況を職員会議や屋礼の機会に職員間で共有している。保育室内の玩具や絵本は、子どもの発達段階や興味、季節感などを踏まえることとし、子どもが自由に取り出すことができるように提供している。また、発達段階の異なる子どもたちが同じ空間内で一緒に過ごすことを考慮して、それぞれの発達に応じた遊びや生活リズムを保障できるよう、意図性のある空間の使い方を心がけている。</p> <p>発達や特性に応じた援助・配慮に努め、子どもたちの育ち合いを促している</p> <p>同じ保育室内ですべての子どもが過ごしており、年下児を気にかけて、世話をしようしたり、泣いている子どもを慰めようしたりする年上児の姿が見られるほか、年上児の様子を見ながら、まねてみようとする中で遊びを獲得するなど、生活と遊びを通じた育ち合いが促されている。特別な配慮を必要とする子どもへの対応では、職員間の情報共有に努め、必要に応じてケース会議を行ったり、保護者と面談の機会を設けたりして、個々の特性や発達段階に応じた援助を行い、無理なく他児と関われるようにしている。</p> <p>かみつや引っかきなどのトラブルには、職員間で情報を共有して対応している</p> <p>発達の過程で見られる、かみつや引っかきなどのトラブルへの対応では、できる限り未然に防ぐことができるよう対策を講じるとともに、トラブルから心の葛藤や折り合いを付けることを体験することで、さまざまな成長が得られることも踏まえ、子どもの心情や発達を踏まえた援助を大切に考えている。また職員間で子どもの情報を共有して、職員の位置取りや言葉かけを工夫している。日々の保護者との情報共有の機会や、個人面談や保護者懇談会を通じて、子どものトラブルが発達の特徴であることを伝え、共通理解を得られるよう努めている。</p>	

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には視診や保護者から子どもの状態を確認・記録し、援助に活かしている</p> <p>登園時には、視診を実施して子どもの顔色や機嫌、目に見える範囲の傷の有無を確認し、検温を実施するほか、保護者から口頭で子どもの状況や伝達事項を聴き取っている。また着替えの際に、子どもの全身の状態も確認し、ケガなどがある場合には記録に残すこととしている。保護者から聞き取った情報は、「シッターノート兼お迎え伝達ノート」に記録し、重要事項に関しては朝礼等で共有している。体調面で不安がある場合には、頻回に様子を確認し、必要に応じて検温を実施するなど、体調の急変に備えている。</p> <p>降園時には、できる限り子どもの様子を保護者に詳しく伝えられるよう努めている</p> <p>降園時には、3分を目安に子どもの様子をできる限り詳しく伝えることを目的として、法人全体で「3分間対応」に取り組んでおり、保護者のお迎えが重なり、対応が難しい場合を除き、できる限り詳しく、丁寧に子どもの様子を伝えるほか、保護者からの伝達事項や要望・相談を聞き取るよう努めている。遅番担当の職員が保護者対応をする場合にも、日中の活動内容や保護者に伝えるべき、健康面やケガ等の情報を、上述の「シッターノート兼お迎え伝達ノート」や職員間の口頭伝達を通じて共有できるようにしている。</p> <p>生活習慣の自立に向けた援助は、子どもの発達や意欲を踏まえながら行っている</p> <p>排せつの自立への援助は、子どもの排尿間隔などの身体機能に加え、興味や意欲の状態を踏まえながら、活動の切れ目に声かけを行ったり、便座に誘ったりするなどして進めており、園での取組の状況や家庭での様子を保護者と伝え合って、共通認識を持てるよう努め、着替えを多く持ってきてもらうなどの協力を呼びかけている。手洗いや着替えの援助では、一緒に行いながら、手順や清潔の心地よさを言葉で伝え、自分で行おうとする意欲が見られた時には、見守りながらさりげなく援助することを大切にしている。</p>		

## 3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当

## 評価項目3の講評

子どもの自発的な活動や、それらから得られる体験を保障できるよう努めている

子どもたちの主体性を尊重し、成功体験や認められる体験から自信や自己肯定感を育て、失敗の体験からは、もっとこうだった、次はこうしようという意欲や考える力を培い、また日々の日課を通じて、生活習慣の習得や食への意欲や関心を促すなど、子どもたちの「生きる力」の基礎を育みたいと考えている。子どもの現状を把握して次を見据えたうえで、保育内容や環境整備、援助を考慮して計画を作成し、子どもと関わる際には、子どもの自発的な活動や、それらから得られる体験を保障できるよう、大人が先回りしてしまわないよう心がけている。

戸外活動に積極的に取り組み、体力を増進し、興味・関心を高めている

好天時には積極的に戸外活動に取り組んでおり、土手にお弁当を持って出かけて、走り回ったり、芝滑りを楽しんだりするなど、身体を思う存分動かし、四つ葉のクローバー探しなど、自然物の収集も楽しんでいる。また毎週「商店街ツアー」を実施しており、花屋ではさまざまな色や形の花に触れ、魚屋では魚をさばく様子を見学するなど、身近な環境からの刺激を好奇心の広がりや多様な職業への関心につなげるほか、店員や道行く人との会話・挨拶を通じて人との関わりを体験しており、保育者は率先して挨拶し、その様子を子どもたちに示している。

子どもたちの発語を促し、感性を育む援助や活動がさまざまに行われている

子どもの発語を促せるよう、生活面の援助や室内遊び・戸外活動などさまざまな場面で、多くの言葉を語りかけ、物の名称、事象、感情、感覚などを伝え、子どもからの発信には受容と共感で応えるなど、応答的なやり取りを心がけている。制作活動はさまざまな素材や技法を体験できるよう、発達に応じた内容で、季節の事象や行事の象徴物等をテーマに取り組むほか、ボディペイントや模造紙を使った自由画などにも取り組んでいる。またカスタネットなどの打楽器に触れたり、ピアノを使ってリズム遊びや形態模写を楽しむなどの経験もなされている。



## 4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

## 評価項目4の講評

さまざまな行事は、子どもの日々の生活や遊びとつながりを踏まえて取り組んでいる

園が考える行事とは、「行事のための行事」ではなく、日々の生活と遊びとのつながりのあるものとし、興味や発達のほか、子どもたちがどのような体験をするかを踏まえたうえで行うことを基本としている。年度末に実施する**年間計画の策定会議**の中で、年間の行事の内容を検討して年間行事計画を策定し、子どもに無理なく取り組めるよう実施している。行事に取り組む際には、気持ちが向かない子どもがいることや、苦手な子どもがいることを前提に無理をさせないことを大切にし、子どもの心情に寄り添い、意欲が高まるような言葉かけを心がけている。

運動会など保護者参加の行事は、保護者に子どもの成長を伝える機会となっている

運動会では親子で運動を楽しむことをねらいとし、普段のリズム体操や雑巾がけを踏まえて、リズム運動の発表や雑巾がけレースを行うほか、2歳児では集団遊びを楽しむようになっている姿からリレーに取り組んでいる。子どもたちの成長を保護者に感じてもらえるよう、当日の子どものありのままの姿を見てもらうことを大切にしており、競技の選定理由や取組の過程を伝えている。「どろんこまつり」ではヨーヨーやボウリングなどのゲームコーナーのほか、制作コーナーなどを設け、さまざまな人と交流しながら、親子で祭りの雰囲気を楽しんでいる。

日常の保育に変化と潤いがもたらす、さまざまな活動を採り入れている

七夕や正月遊び、節分、ひな祭りなど、季節にちなむ伝承行事も採り入れており、由来を伝えたり、行事を象徴するものをテーマにした制作に取り組んだりするほか、七夕の短冊や豆まきごっこなどの風習や遊びも体験し、行事食も提供するなど、複数の活動を関連させて実施している。そのほか系列園へのバス遠足、高齢者デイサービス事業所や学生との異世代交流、梅ジュース作りや焼き芋などの食育活動、交通安全教室、外国語の挨拶などを教えてもらう異文化交流など、さまざまな活動を採り入れることによって、日常の保育に変化と潤いがもたらされている。

5	評価項目5		評点(〇〇)
	保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当	
	評価項目5の講評		
	<p>保育時間が長くなる子どもが、健康的に安心して過ごせるよう配慮に努めている</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちが健康的に過ごせるよう、登園時の視診や検温などによって健康状態を把握し、職員間で情報を共有しており、気になる様子が見られたり、保護者から体調不良の不安を聴き取っていたりする場合には、頻回に状況を確認して、急な体調の変化に備えている。また子どもの体力や生活リズムに応じて休息を取れるようにするほか、夕刻以降の時間帯には、ゆったり過ごすことができるよう配慮し、情緒面に不安が見られる場合には、保育者がスキンシップを図るなどして、安心できるようにしている。</p>		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動、保護者や地域の多様な関係者との連携等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>安全な食事の提供に向けて、さまざまな取組や援助を行っている</p> <p>食品の納品を受ける際には、賞味期限・消費期限の確認を行い、食材は国内産とし、米は系列法人により自家生産したものを使用している。食物アレルギーを持つ子どもへの対応では、保護者記入の「除去食申請書」、医師記入の「生活管理指導表」のもとで、個別の面談を実施して園での対応の同意を確認したうえで、除去食を提供している。提供時には複数職員による内容の確認や、着座の位置の工夫など、誤食防止の対策を講じている。離乳食は保護者と子どもの咀嚼・嚥下などの発達状況や食材の体験を確認しながら、無理なく段階を進めている。</p> <p>食事への意欲を育めるよう、空腹を感じるリズムを大切にし、提供の工夫に努めている</p> <p>食事に対する主体的な意識・意欲を育めるよう、午前中に雑巾がけや戸外活動といった、身体を存分に動かす活動を探り入れるなど、内容の充実を図り、子どもが「食べたい」と感じて食事を摂る生活リズムを大切にしている。また食べる場所を自分で選べるようにするほか、1歳児から、主菜・副菜を自分で盛り付ける取組を始めており、保育者の見守りと援助のもとで、規定量の参考を見ながら、自分が食べるものを自分でよそう体験を日々重ねている。子どもの喫食状況は保育者と調理担当で共有し、食材の固さ、大きさ、味つけ等の改善に役立っている。</p> <p>さまざまな食農・食育活動を通じて、「生きる力」の基礎を培っている</p> <p>自分で食べるものを自分で作る体験の機会をさまざまに設けており、食事への意欲や興味を育んでいる。系列園にバスで出かけて畑仕事に取り組むほか、園においてもプランターで野菜を栽培している。肥料の混ぜ込みや水やりなどを体験しており、収穫したものを用いて、ピザ・カレー・ふりかけ・おにぎりなどを作っている。ピザ作りでは、生地にソースを塗って具材をのせ、カレー作りでは、お米を研ぎ、調理器具を使って野菜を切る体験もしている。そのほか梅ジュース、ポップコーン、鶏飯、焼き芋、切り干し大根、うどんなどを作る機会も設けている。</p>		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもがケガをしない強い身体を育てるという方針のもと、日頃の日課に取り組んでいる</p> <p>子どもがケガをしない強い身体を育てるという方針のもと、子どもたちの園生活において、裸足保育や雑巾がけ、畑仕事や長距離散歩、リズム体操などを採り入れている。午前中はしっかりと戸外で身体を動かし、長距離の散歩をすることで足腰のバランスや体幹・体力を増進し、お腹いっぱい昼食を食べて休息するといった遊び・労働・食事・休息のサイクルと、日頃の日課を大切にしている。また、散歩の際に手をつないで歩くことや交通マナーなどを学ぶほか、警察署員を招いて、模擬の信号や横断歩道を用いて子どもたちが手を挙げて渡ったりしている。</p> <p>医師や家庭との連携体制を整え、感染症やケガなどの予防・対応などを行っている</p> <p>嘱託医による定期的な健康診断が行われており、結果は乳幼児健康診断票に記録するとともに、保護者に報告と確認の押印をもらうなど、双方での情報共有を図っている。また身長・体重は毎月測定し、結果は専用アプリで保護者に報告している。季節ごとに流行する感染症に関して、保健便りにて情報提供をするほか、園内で感染症が発生した場合、掲示やアプリで知らせている。その他、保育中のケガ等に備え、近隣の医療機関との連携体制を整えるほか、SIDSの対策として定期的な呼吸や体位の確認をし、アプリに記録することとしている。</p> <p>環境変化を含めて子どもの状況を把握し、それぞれに応じた配慮に努めている</p> <p>認証保育所の特性により、年度途中の入園や退園などが生じるため、新入園と在園の子どもそれぞれが安心できるような生活と配慮に努めている。また子どもの様子を踏まえ、日々の遊び等に誘いかけたり、思いを受けとめたりして、順応しやすいような工夫を行うこととしている。入園時には、感染症やケガなどに関する園の対応方針やお知らせなどを保護者に説明している。日頃の子どもの健康状態は、登園時の受け入れで視診を行い、保護者からも家庭での様子や睡眠、食欲等を聴くなど、家庭と連携しながら子どもの健康管理にあたっている。</p>		

## 8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

## 評価項目8の講評

保護者の子育てや就労等の状況を把握したり、日程等への配慮を行っている

保護者の子育ての支援に向け、契約時及び更新時などで保護者のニーズを把握しており、アプリを活用しながら利用コースの変更などを受け付けている。また送迎時の会話や連絡アプリでのやり取りに加え、希望者には随時の面談を実施し、子どもの様子の報告と、保護者の悩みや子育てに関する聴き取りも行っている。運動会や「どろんこまつり」、発表会などの保護者参加行事は土曜日に設定しており、年間の行事や月々の予定などを保護者に事前に知らせることで、日程調整がしやすいような配慮もなされている。

懇談会や各種の発信により、子どもの育ちや教育・保育の内容等を保護者に知らせている

年2回実施される保護者懇談会では、園から子どもたちの成長の見通しや今後半年の目標、子どもたちの育ちなどを伝えるほか、職員と保護者との意見交換を図りながら、園と保護者の保育・教育内容についての相互理解を深める機会ともなっている。子どもに関する情報については、日々の送り迎え時のコミュニケーションや連絡アプリのやり取り、園便り等の定期的な発信などのほか、どろんこまつりの際には写真等を掲示し、保護者に見てもらうことで、より具体的な食育等の取組を発信している。

保護者同士の交流の場や、保育参加の機会を提供している

保護者同士の交流の場として、どろんこまつりや発表会などの保護者参加行事で顔を合わせ、自然な交流が行われるほか、運動会後には任意の家庭と昼食の時間を設け、職員や各家庭同士の交流の機会を積極的に設けている。また、保護者懇談会の際には職員との話し合いだけでなく、保護者同士の懇談の時間も設けている。保護者の養育力向上のため保育参加を受け付けており、1日1名ずつの保護者が、登園から降園まで子どもたちと一緒に過ごし、自分と他人の子どもとの関わり、保育者の思いなどを知ってもらう機会を提供している。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
	評価項目9の講評		
	<p>子どもの生きる力を育む、本物の経験の機会を提供している</p> <p>法人所有のバスを活用し、定期的に系列園に出かけている。畑の一角を借りて農作物を栽培しており、水やりや草取りをしたり、収穫後に食べるといった体験を重ね、生きる力を育んでいる。また鶏やヤギなどの観察やお世話をするほか、時には園庭を借りて泥まみれになりながら遊びを楽しむ機会も設けている。徒歩やバスでの遠足にも出かけており、赤羽公園で築山に登ったり、桜堤緑地で芝滑りをしたりするほか、電車を見たり、公園で弁当を食べたりと、子どもたちがさまざまな場所での体験が得られるようにしている。</p> <p>地域との連携のもとに、子どもたちの社会性や感性を豊かなものとしている</p> <p>「シニア交流」として地域の高齢者施設に出かけ、高齢者の方とのふれ合いの機会が設けられており、定期的にやり取りする中で関係が深められている。また「商店街ツアー」と題し、消防署や寺・神社、お茶屋・花屋などに出かけ、野菜・果物・お茶等の販売しているものを見たり、地域の人との挨拶ややり取りを交わすことを楽しんだりするなど、身近な社会や仕事などを知ることにもつながっている。さらに、「どろんこまつり」への地域の方の招待、高校生の職場体験の受け入れ、大学生や近隣園との交流など、地域に開かれた園づくりに取り組んでいる。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル①	新人から経験ある職員まで、組織全体で高め合う取組を進めている	
内容①	新入職の職員には所定のリストをもとに、子育て方針、接遇面や保育業務の全般的な内容、危機・衛生管理など、保育者及び社会人として学ぶべき事項を知らせ、その後のフォローも行っている。また、毎年「キックオフミーティング」では、園で大切にすることや安全・衛生面などの手順を園全体で再確認するとともに、それ以降の定期的な会議や園内研修、OJT形式での指導なども行っている。さらに、交換研修や園見学での指導を通じ、園内での保育親や思いなどの目線合わせを進めており、その後の話し合いや現場での活動などに、成果が表れつつある。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	小規模園の特性を活かし、一人ひとりの状況に応じた援助に努めている	
内容②	小規模園の特性を活かし、すべての保育者がすべての子どもの状態や特性を把握し、子ども一人ひとりの主体性を尊重できるよう努めており、集団行動を強制しないことを大切にしつつも、子どもの発達を促す体験を保障できるよう取り組んでいる。実践の一例として、糊の感覚が苦手な子どもに別の方法で制作に取り組めるようにするなど、個々の特性に応じた援助・配慮を行っている。子ども一人ひとりの発達段階や特性等の情報は、日々の対話のほか、園会議、情報伝達用の「引き継ぎノート」などを通じ、関係職員間で共有できるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル③	日課を通じて、子どもの健康的な生活習慣の獲得や体力増進などにつなげている	
内容③	園生活では裸足保育を基本とし、雑巾がけや長距離散歩、リズム等を日課に組み込み、子どもたちの足腰や体幹などを自然と鍛えながら、ケガをしない丈夫な身体づくりにつなげている。散歩で遠くまで歩いた後でしっかりと食事を摂り、手洗いや歯磨き等に取り組む中で健康的な生活習慣を身につけるほか、道中で手をつないで歩いたり、交通ルールを知る機会となっている。また暑さ寒さ等の気温の変化を感じ、衣服の調整をしたり、鼻水が出る時には少しずつ自分で鼻をかむことに挑戦したりするなど、日々の積み重ねを大切にしながら、生きる力を育んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	食への意欲を育めるよう、空腹を感じるリズムを整え、育てる・作る・用意する・食べるの体験のほか、食文化に触れる機会を設けている
	内容	食事に意欲的・主体的に向かえるよう、午前中の活動には、雑巾がけや畑仕事、戸外活動など、身体を存分に動かし、空腹を感じて食事を摂るリズムを大切にしている。自分で作ったものを調理したり、準備したりする取組として、プランターで栽培した野菜を収穫・調理して、ピザやカレーなどを作り、1歳児からは、主菜・副菜を自分で盛りつける活動も採り入れている。また食文化に触れる取組も設けており、梅ジュースや焼き芋、切り干し大根など旬の食材を用いた調理体験や、郷土料理の提供を行い、子どもたちは十五夜の制作などにも取り組んでいる。
2	タイトル	さまざまな体験を通じて子どもたちの好奇心を刺激し、興味・関心の広がりを促している
	内容	上述の多彩に展開する食農・食育の取組に加え、毎週実施している「商店街ツアー」は、さまざまな仕事を目にすること、地域の大人と目を見て話すことなどを目的に実施しており、周辺の地域資源を活用し、今年度は花屋・和菓子屋・神社・運送会社・クリーニング店などに出かけている。戸外活動では身体を存分に動かすほか、移ろう四季折々の植物に触れたり、自然物の収集を楽しんだりし、持ち帰ったどんぐりを制作に活かす取組も行っている。また季節ごとの伝承行事では、子どもたちは由来を知り、風習や遊びを楽しむなど文化体験の機会となっている。
3	タイトル	異年齢の子どもたちが生活と遊びをともにする中で、相互の育ち合いを促せるよう、発達・理解に応じた援助を行っている
	内容	2歳児までの子どもたちが一つ屋根の下で過ごす園舎の空間の中で、生活と遊びをともにしており、一緒に過ごすことで、まねしたり、お世話したりする姿が見られるようになるなど、関わりを通じて、年齢相互の育ち合いが促されている。これらの異年齢の生活の中で、保育者は子どもたち同士の様子を見守りつつ、双方の意思の疎通が難しい場合には、代弁などの仲立ちに入るようにしており、お世話したい気持ち、一緒に遊びたい気持ちに寄り添いながら、関わり方や言葉でのやり取りの仕方を伝える援助に努め、年上児の遊びの保障にも配慮している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	各職員が法人・園の理念等に基づくものを言語化していく取組に注力しており、試行錯誤が成果へと結実してゆくことを期待したい
	内容	園見学から入園後の説明、日々の様子の報告など、さまざまな機会でも法人や園の思いを伝えているが、保育や子どもの発達援助等において大切にすることも、それらの園の日頃の保育などとの結びつきなどにおいて、利用者調査からはさらなる工夫の余地もうかがえる。園内研修では見学者への説明を念頭に、各職員が法人の理念・方針などを自身の表現で言語化する取組を行っており、これに象徴される、園の保育の本質を、法人の理念などとも関連づけつつ発信してゆくための試行錯誤が、内外からのさらなる理解と信頼に寄与してゆくことを期待したい。
2	タイトル	BCPを事業所単位の運営・事業継続にも反映させる工夫や、安全面全般に対する保護者の信頼のさらなる向上を図る配慮を期待したい
	内容	法人共通の「保育品質マニュアル」に、災害・感染症の発生時のBCP(事業継続計画)を掲載し、その他の事象を含む各種緊急事態への対応を示す「クライシスマニュアル」とともに、必要時の手引きとしている。これらは法人全体としての対応を主たる内容としており、園単位での対応についても具体的に文書化し、訓練・研修等にも活かすことが期待される。また利用者調査では園の安全対策について、支持率からは保護者の信頼をさらに高める余地もうかがえる。多様に行われる園の安全向上の取組を、より積極的・具体的に発信してゆく工夫も一考されたい。
3	タイトル	事業計画の立案等に組織全体の参画を促す工夫を、その進捗・達成確認や、さまざまな目標等の検討にも活かす工夫を一考されたい
	内容	新年度開始にあたり、園目標や各種行事などの年間の園の方向性を、事業計画をもとに職員同士で話し合い、明確にしている。法人共通のこの仕組みは、園運営に現場の視点を活かし、職員には運営への積極的な関心と参画を促す、マネジメントにおける独自の工夫となっている。これを同計画の期中・期末の評価のほか、各重点課題における定性的・定量的な目標、計画に併記される3か年計画の「目指す姿」等の、達成イメージや到達点の検討にも応用するなど、組織全体で園を創造してゆく文化を、園の近未来像の明確化にも活かす工夫を期待したい。